

(抄訳)

ニュース・リリース

コンタクト：マーク・ハー（メディア）

212-770-3505

ジョー・リーリ（投資コミュニティ）

212-770-7074

**AIG は、P&C 事業におけるロングテール事業に関連する  
保険給付支払準備金強化のため**

**第4四半期において純費用 41 億ドルを計上すると予想している**

総費用の約 80 パーセントは以下の 4 つの事業に関連している：

アスベスト保険事業、超過額賠償責任保険事業、超過額労働者災害補償保険事業、および、  
ライマリー労働者災害補償保険事業

ニューヨーク 2011 年 2 月 9 日－アメリカン・インターナショナル・グループ・  
インク（「AIG」）は、本日（抄訳者注：NY 時間 2 月 9 日。以下、本リリースに含  
まれる時間は断りのない限りすべて NY 時間で表示。）、保険給付支払準備金の年  
次査定の完了を受け、チャーティスの損害保険子会社における保険給付支払準備  
金強化のために、41 億ドル（正味 4.46 億ドルの割引連動および損害連動保険  
事業の保険料調整後の金額）の費用を、2010 年第 4 四半期に計上することを予  
想していると発表した。

AIG は、さらに、先日完了したエイアイジー・スター生命保険株式会社および  
AIG エジソン生命保険株式会社の売却における売却代金のうち現金払いを受け  
た 20 億ドルを AIG が保有することを許可するレター・アグリーメントを米国財  
務省との間で締結したことを発表した。AIG は当該売却代金およびその他の資金  
を、チャーティスの保険子会社の保険給付支払準備金強化に関連する資金援助  
のために利用する。その結果、AIG は、引き続き、チャーティスの保険子会社の  
法定剰余金は、ほとんど影響を受けないと予想している。

チャーティスの保険給付支払準備金強化は、ロングテール事業における以前の保険事故年度の不利な変動を反映している。4つの事業、すなわち、アスベスト保険事業、超過額賠償責任保険事業、超過額労働者災害補償保険事業およびプライマリー労働者災害補償保険事業は、総費用の約80パーセントを構成している。保険給付支払準備金強化の大半は、2005年以前の保険事故年度における変動に関連している。

保険給付支払準備金の合計は、2010年9月30日付けで発表されている、AIGの未払保険金および保険金請求調整費用に対する純負債の総額である637億ドルの内、約6パーセントを占める。

毎年年度末に、チャーティスは、正味保険給付支払準備金の包括的な査定を行う。そこでは、正味保険給付支払準備金は、既報告損害の予測(ケースごとの保険給付支払準備金)および既発生未報告 (IBNR)である損害に対する引当金から、両者について、適用ある再保険の回収見込額および将来の投資利益の割引額を減額(適用できる場合)した後の両者の累計額によって表わされる。詳細にわたる当該査定は各子会社の事業ごとに行われ、数百の独立した分析から構成される。

当該査定の目的は、各子会社が保有している保険給付支払準備金、ひいては、AIGが全体として保有している保険給付支払準備金の適切性を確認することである。外部の保険数理人からの援助を受け、AIGの保険数理人チームは新たなデータおよび新たな新興トレンドから潜在的な影響を査定する。かかる査定プロセスは、保険給付支払準備金の見積りのレベルにつき、より優れた、より正確な分析および判断を可能とする。

2010年年度末の保険給付支払準備金の査定の結果、AIGは、下記のとおり、主に4つの事業において割引前保険給付支払準備金約46億ドル(割引後は約41億ドル)の強化を行った。

・ **アスベスト保険事業**： 割引前 13 億ドル

理由： 2010年年度末の保険給付支払準備金の査定中、外部の保険数理人の特定の会計基準を用いるアスベスト保険事業モデル (standard account-specific asbestos model) は2010年の情報のため更新され、AIGの損害実績(2010年第2四半期および第3四半期の実績も

含む。)に従って調整された。更にAIGは、最近の保険業界における、より広く損害賠償責任をカバーすべきという保険の拡大論のトレンドの高まりを勘案し、業界全体ならびにAIG特有のIBNR請求に関する見積りおよび損害実績をより正確に反映するためにAIGの保険給付支払準備金についての見積もりをいくつか修正した。

注:アスベストによる損害は1985年以降、AIG保険契約の保障対象外である。

・**超過額賠償責任保険事業： 10億ドル**

理由： 2010年第4四半期中、超過額賠償責任保険事業において発生した損害は、特に近年の保険事故年度において、予測を大幅に上回った。このような発生した損害の増加に対応すべく、AIGは近年の発生した不利な損害実績に重点を置くために、近年およびそれ以前の保険事故年度における損害変動の見積もりを修正した。AIGは、さらに潜在的な保険金請求への継続的なエクスポージャーおよびロングテール事業の業界全体に広がる製造物責任を広く認める判例が増加していることに加え、近年の保険事故年度における、市場が衰弱している状況下で予想損害率を取り巻く環境が継続して不安定であることも考慮要素とした。

・**超過額労働者災害補償保険事業： 割引前 8.25億ドル**

理由： 2010年年度末の保険給付支払準備金の査定に利用された保険金請求の予想は、当該請求金が引続き、予想していた以上に不利に変動することを示唆した。その結果、AIGは、不利な実績を反映するために損害の変動に関わる前提条件を修正する十分な実績があると判断した。不利な変動に貢献した重要な要因は、係属する医療費の高騰、新規の（そして多くの場合は追加的に実施される）特別治療法（例えば、「疼痛処理」）、医療サービスの改善により請求支払期間が長くなったこと、および契約管理代行者（third party administrators）による請求費用の過小評価である。

・**プライマリー労働者災害補償保険事業： 割引前 4.20億ドル**

理由： この事業の近年の保険事故年度における損害額は、当初のこれら事故年度に設定された予想損害率をもとに、AIGの修正された請求処理手続も考慮したうえで予想されていたものを大きく上回った。AIGは現在、損害の実績の悪化が損害の発生を牽引していると判断して

いる。超過額労働者災害補償保険と同様に、医療費の高騰、追加される特別治療法および請求支払期間が長くなっていることは損害発生悪化の要因となっており、昨今の高い失業率の環境における職場復帰の減少が損害発生に拍車を掛けている。したがって、AIG は、2010 年年度末の保険給付支払準備金の査定中に、より近い保険事故年度における発生パターンに重点を置き、それ以前の保険事故年度における発生パターンには重点を置かないよう、見積りを修正した。

注： 2007 年以降、AIG は、保証付プライマリー労働者災害補償保険事業の正味引受保険料を 70 パーセント減少させた。

上記の事業に加え、AIG は、建設／企業リスクの事業および米国内勘定の事業の割引前保険給付支払準備金約 8.20 億ドルの強化を行った。建設および企業リスクは、別々の事業であるが、ともに主に特定の労働者災害補償保険および総合賠償責任保険を含んでいるため、上記のように明確に分類されている労働者災害補償保険事業の損害実績による影響を受けた。建設および企業リスクの事業の 2010 年年度末の保険給付支払準備金の査定において、より近い保険事故年度における不利な損害実績の発生に重点を置くために、AIG は損害変動の予想を修正することが適切であると判断し、2010 年第 4 四半期の保険給付支払準備金を約 4.20 億ドル増加させた。米国内勘定事業に関しては、チャーティスの損害データの 2010 年年度末の査定から、以前の保険事故年度の保険給付支払準備金強化が必要であるという結論に至った。その結果、この事業の保険給付支払準備金は約 4 億ドル強化された。その他の様々な事業が残りの 2.40 億ドルの保険給付支払準備金強化を構成している。

保険給付支払準備金強化は、4.46 億ドルの保険給付支払準備金の割引連動および損害連動保険事業の保険料調整により一部相殺された。当該割引および調整には、アスベスト事業における保険給付支払準備金割引約 1.20 億ドル、上記の労働者災害保険事業における保険給付支払準備金割引約 3 億ドルおよび特定の損害連動保険における追加的な保険料の発生 2,600 万ドルが含まれる。

# # #

本プレスリリースには、1995 年私募証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) において意味するところの「将来の見通しに関する記述」が含まれている。かかる記述は、将来における事象に関する AIG

の考えを反映しており、AIG の予測に基づいている。かかる記述は、年度末の会計を含む、リスクおよび不確実性にさらされている。米国の証券法が要求する重要な情報の開示につき AIG が引続き負う義務を除き、AIG は将来の見通しに関する記述につき、本プレスリリースの日付以降に生じた事象および状況を反映させるために新たな情報を提供する予定はない。

# # #

AIG グループは世界の保険業界のリーダーであり、130 以上の国・地域で事業展開している。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供している。このほか、米国内においては生命保険事業およびリタイアメント・サービス事業も展開している。持株会社 AIG, Inc. の普通株式はニューヨーク、アイルランド、東京の各証券取引所に上場されている。

# # #

以上



# News Release

Contact: News Media:  
Mark Herr  
212-770-3505

Investment Community:  
Joe Reali  
212-770-7074

## **AIG EXPECTS TO RECORD \$4.1 BILLION NET CHARGE IN FOURTH QUARTER 2010 TO STRENGTHEN LOSS RESERVES ASSOCIATED WITH LONG-TAIL LINES IN P&C BUSINESS**

**Approximately 80% of total charge relates to four classes of business: asbestos, excess casualty, excess workers' compensation, primary workers' compensation**

NEW YORK, February 9, 2011 – American International Group, Inc. (AIG) announced today that, following completion of its annual comprehensive loss reserve review, it expects to record a \$4.1 billion charge, net of \$446 million in discount and loss sensitive business premium adjustments, for the fourth quarter of 2010 to strengthen loss reserves in its Chartis property and casualty insurance subsidiaries.

In addition, AIG announced that it has entered into a letter agreement with the U.S. Department of the Treasury permitting AIG to retain \$2.0 billion of the net cash proceeds from the recently closed sale of AIG Star Life Insurance Co. Ltd and AIG Edison Life Insurance Company. AIG will use these proceeds, and other funds, to support the capital of Chartis insurance subsidiaries in connection with the loss reserve strengthening. As a result, AIG expects that the Chartis insurance companies' statutory surplus will remain largely unaffected.

The strengthening to Chartis loss reserves reflects adverse development on prior accident years in classes of business with long reporting tails. Four classes – asbestos, excess casualty, excess workers' compensation, and primary workers' compensation – comprise approximately 80 percent of the total charge. The majority of the strengthening relates to development in accident years 2005 and prior.

The total reserve strengthening represents approximately six percent of AIG's total general insurance net liability for unpaid claims and claims adjustment expense of \$63.7 billion reported at September 30, 2010.

At the end of every year, Chartis conducts a comprehensive review of its net loss reserves, which represent the accumulation of estimates for reported losses (case basis reserves) and provisions for losses incurred but not reported (IBNR), both reduced by applicable reinsurance recoverable and the discount for future investment income, where permitted. These detailed reviews are conducted for each class of business for each subsidiary, and thus consist of hundreds of individual analyses.

--more--

## **AIG Expects to Record \$4.1 Billion Net Charge in Fourth Quarter 2010 to Strengthen Loss Reserves Associated with Long-Tail Lines in P&C Business...**

February 9, 2011

Page two

The purpose of these reviews is to confirm the appropriateness of the reserves carried by each of the individual subsidiaries, and therefore of AIG's overall carried reserves. With the assistance of third party actuaries, AIG's actuarial teams assess the potential implications of new data and new and emerging trends, a process that allows for better, more refined analyses and judgments regarding the level of estimated loss reserves.

As a result of the 2010 year end loss reserve review, AIG strengthened loss reserves approximately \$4.6 billion before discount (approximately \$4.1 billion net of discount) primarily in four classes of business as follows:

- **Asbestos: \$1.3 billion before discount**
  - **Rationale:** During the 2010 year end loss reserve review, the third-party actuary's standard account-specific asbestos model was updated for 2010 information and was calibrated to actual AIG experience, including that in the second and third quarters of 2010. AIG also modified certain of its loss-reserve-related assumptions to better reflect both industry-wide and AIG-specific expectations and experience for IBNR claims, taking into consideration recent, higher industry-wide trends regarding expanding coverage theories for liability.
  - **Note:** Asbestos coverage has been excluded from AIG policies commencing in 1985.
- **Excess Casualty: \$1.0 billion**
  - **Rationale:** During the fourth quarter of 2010, loss emergence for the excess casualty class significantly exceeded expectations, particularly in more recent accident years. In response to this higher level of loss emergence, AIG modified its loss development assumptions for recent and older accident years to provide greater weight to emerging adverse experience in the more recent years. AIG also considered the continued exposure to latent claim emergence and the industry-wide rise in large product-liability verdicts for this long tail class of business as well as the continued uncertainty surrounding the expected loss ratios during the soft market conditions that have prevailed in recent accident years.
- **Excess Workers' Compensation: \$825 million before discount**
  - **Rationale:** The claims projections utilized in the 2010 year end loss reserve review indicated that these claims continue to develop more adversely than expected. As a result, AIG concluded that there was sufficient experience to support a revision in its loss assumptions to reflect its adverse experience. Significant contributing factors have been continuing medical inflation, new and often additional treatment specialties such as "pain management," longer claim payment periods due to improved medical care, as well as the underestimation of claim costs by third party administrators.
- **Primary (Specialty) Workers' Compensation: \$420 million before discount**
  - **Rationale:** Loss emergence for the more recent accident years for this class has significantly exceeded that which was anticipated by the expected loss ratios originally established for these accident years taking into consideration AIG's revised claims handling practices, and AIG has now concluded that worsening experience is driving the emergence. Similar to excess workers' compensation, continuing medical inflation, additional treatment specialties, and longer claim payment periods are all contributing factors, further

--more--

## AIG Expects to Record \$4.1 Billion Net Charge in Fourth Quarter 2010 to Strengthen Loss Reserves Associated with Long-Tail Lines in P&C Business

February 9, 2011

Page three

compounded by reduced return to work opportunities in today's high unemployment environment. Therefore, AIG modified its estimates to give greater weight to the emergence pattern for the more recent accident years and, to a lesser extent, earlier accident years, during the 2010 year end loss reserve review.

- **Note:** Since 2007, AIG has reduced its net written premiums for guaranteed cost primary (specialty) workers' compensation business by almost 70 percent.

In addition to the above classes, AIG also strengthened reserves in its construction/commercial risk and national accounts classes of business by approximately \$820 million before discount. The construction and commercial risks, while separate classes of business, consist primarily of certain primary workers' compensation and general liability coverages, and thus the experience in the workers' compensation lines identified in the distinct classes above also affected these lines. For the 2010 year end loss reserve review of the construction and commercial risks classes, AIG determined it was appropriate to modify its loss development assumptions to provide greater weight to emerging adverse experience in the more recent accident years and increased its loss reserves by approximately \$420 million in the fourth quarter of 2010. For the national accounts business, the 2010 year end review of Chartis loss data led to the conclusion that reserves for older accident years required strengthening. As a result, reserves for this class of business were strengthened by approximately \$400 million. Various other classes comprised the remaining \$240 million of reserve strengthening.

Partially offsetting the reserve strengthening was \$446 million of loss reserve discount and loss sensitive business premium adjustments, including approximately \$120 million of reserve discount for the asbestos class; approximately \$300 million of reserve discount for the various workers' compensation classes discussed above; and an additional premium accrual of \$26 million on certain loss sensitive policies.

# # #

This press release contains "forward-looking statements" within the meaning of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. These forward-looking statements reflect AIG's current views with respect to future events and are based on assumptions and are subject to risks and uncertainties, including completion of the year end audit process. Except for AIG's ongoing obligation to disclose material information as required by federal securities laws, it does not intend to provide an update concerning any future revisions to any forward-looking statements to reflect events or circumstances occurring after the date hereof.

# # #

American International Group, Inc. (AIG) is a leading international insurance organization with operations in more than 130 countries and jurisdictions. AIG companies serve commercial, institutional and individual customers through one of the most extensive worldwide property-casualty networks of any insurer. In addition, AIG companies are leading providers of life insurance and retirement services in the United States. AIG common stock is listed on the New York Stock Exchange, as well as the stock exchanges in Ireland and Tokyo.

# # #